

報道関係各位

プレスリリース

2012年1月16日

株式会社マーシュ

〒154-0012 東京都世田谷区駒沢1-4-15 真井ビル7F

TEL: 03-5433-0321 FAX: 03-5433-0481

~ 3月で東日本大震災から丸2年。2年を目前とした今、自分達に変化はあったのか。 ~

震災後の生活に関するアンケート- 5回目 -

ネットリサーチ会社の株式会社マーシュ(東京都世田谷区駒沢、代表:町田正一)は、関東圏に住む20~69歳の男女を対象に「震災後の生活に関するアンケート」(5回目)を実施し、その結果を1月11日に公開いたしました。調査期間は2012年12月25日(火)~12月26日(水)まで。

調査結果の詳細・すべてのグラフはこちら <http://www.marsh-research.co.jp/examine/ex2412.html>

【調査結果概略】

生活について回復・復旧を実感していると回答する人は、全体の36.4%。前回2012年3月に実施した4回目の調査とほぼ変わらない結果であった。

調査を開始した震災直後の2011年4月からその半年後の2011年9月までの調査では、「回復・復旧の実感」は5割台であったが、2012年からは36%台に留まる。この数値から、「実感」がないのではなく、既に、「回復・復旧」は「実感」するほどのものではなくなっているということも考えられる。

次に、自肃ムードを実感しているかをどうかを尋ねたところ、「感じる」は全体の18.2%で、こちらも2012年3月の調査と同様の結果となった。

震災を機とした生活の変化については、全体的に前回の数値を下回る結果となる。トップの「防災用品を準備するようになった」は、唯一、過去3回の調査結果を僅かではあるが上回り(前回32.2%)、33.8%であった。

また、今回は定点設問の他に、「2012年12月7日(金)の三陸沖の地震(マグニチュード7.4)が起こった直後にとった行動」「首都直下型地震ではないにしろ、近いうちに震度7以上の地震が自分自身に降りかかると思うかどうか」などについても尋ねている。

【調査概要】

調査名: 震災後の生活に関するアンケート(5回目)

対象者: 関東圏(埼玉県/千葉県/東京都/神奈川県)に住む20~69歳の男女

サンプル数: 500s

調査方法: インターネット調査

調査機関: 株式会社マーシュ

アンケートモニターサイト「D STYLE WEB」(<http://www.dstyleweb.com/>)の登録会員を対象に実施

【調査結果】

Q1. 現在のあなたご自身の生活について、2011年3月11日に発生した東日本大震災が発生してから、回復・復旧を実感していますか。

回復・復旧を実感している(非常に・やや 計)は36.4%と、前回2012年3月から横ばいの結果となった。【図1】

Q2. では、世間全体をみて、現在「自肃ムード」を感じていますか。

「自肃ムードを感じる(非常に・やや 計)」は18.2%とこちらも前回とほぼ同率の結果。震災から1年と9ヶ月が経ち(調査実施時)、震災前の生活に戻ってきたことがわかる一方で、2割弱の人は自肃ムードを依然感じている。

Q3. 東日本大震災を機に、以降の日常生活で変化したことはありますか。

「防災用品を準備するようになった」が33.8%で前回同様にトップ。次いで、「食品の購入時に産地を気にするようになった」(30.8%)、「ニュースを見るようになった」(25.2%)と続く。今回の調査結果は、「防災用品を準備するようになった」以外の全項目で過去3回の調査結果を下回った。

Q4. この冬、あなたが節電に協力するために、意識的に取り組んだ節電対策はどのようなことですか。

「日中は照明を消す」が49.8%でトップで、前回より約5ポイント上回る。次いで、「室温20度の心掛け」(34.0%)、「長時間非使用のプラグは抜く」(33.8%)が続く。わずかではあるが、今回の結果は前回を上回る項目が多い。

Q5. 東日本大震災復旧・復興対策を目的とした政府の取り組みの中で、進行速度が遅いと思われるものを全てお知らせください。

トップは「がれき除去・撤去」で60.4%。次いで、「雇用の創出」(47.2%)、「災害廃棄物の処理」(40.4%)と続くが、いずれの項目も前回の調査結果を下回る。特に、「がれき除去・撤去」「再生可能エネルギー(太陽光発電や風力発電)の設置・促進」は、10ポイント以上下回る。

選択項目については、「東日本大震災からの復興の基本方針」からの参照・抜粋

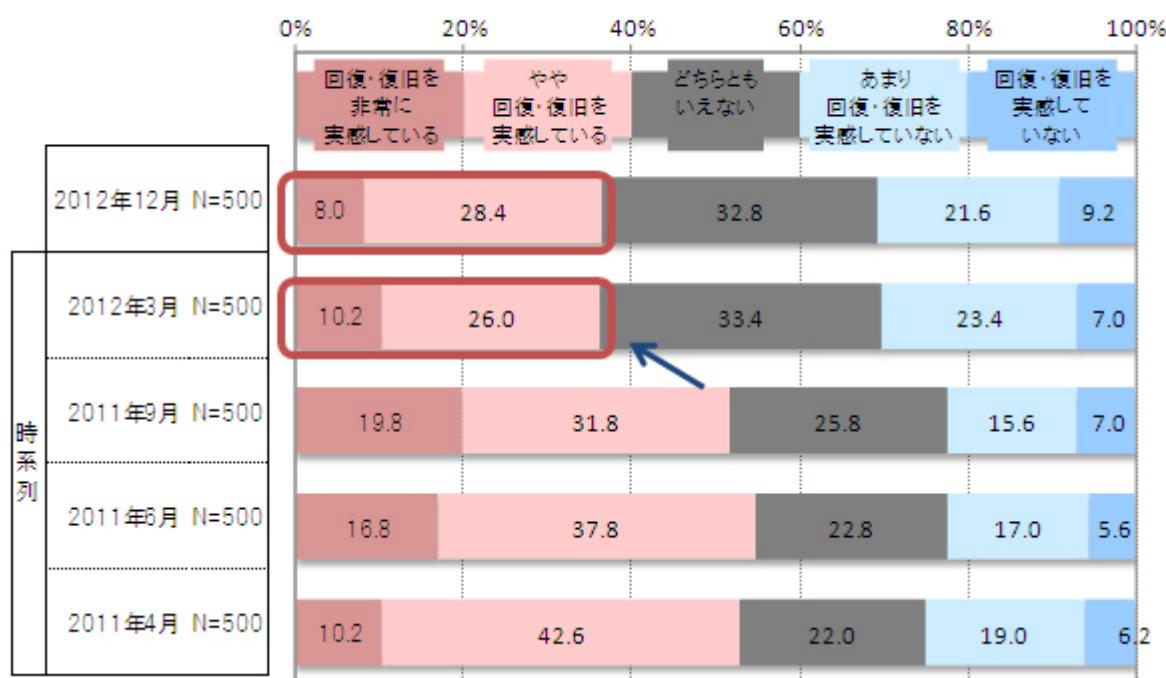
Q6. 12月7日(金)に、三陸沖の地震(マグニチュード7.4)が起こりましたが、あなたはその直後どのような行動を起こしましたか。

約6割が「テレビ、ラジオ、ネット等のニュースで状況を確認した」と回答。次いで、「その場で待機し(様子を見た)」(38.2%)、「家族の安否を確かめた」(29.6%)と続き、まずは冷静な判断をするといった行動が見受けられた。

Q7. 首都直下型地震ではないにしろ、今後近いうちに、震度7以上の地震があなた自身に降りかかると思いますか。

半数以上が「降りかかると思う(降りかかる・恐らく降りかかる 計)」と回答する一方で、「どちらとも言えない」の中庸意見も4割以上と高めであった。【図2】

【図1】 Q1.現在のあなたご自身の生活について、2011年3月11日に発生した東日本大震災が発生してから、回復・復旧を実感していますか。(1つ選択)



【図2】 Q7.首都直下型地震ではないにしろ、今後近いうちに、震度7以上の地震があなた自身に降りかかると思いますか。(1つ選択)

